

2025 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

会議名	2025 年度 第 1 回学校関係者評価委員会																						
開催日時	2025 年 5 月 16 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分																						
会 場	東京バイオテクノロジー専門学校 本校舎 2F 教室 (A22 教室) 東京都大田区北糀谷 1-3-14																						
参加者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">区分</th> <th style="width: 25%;">氏名</th> <th style="width: 25%;">所属</th> <th style="width: 25%;">役職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等学校代表</td> <td>森 章</td> <td>拓殖大学紅陵高等学校</td> <td>学校長</td> </tr> <tr> <td>保護者代表</td> <td>関口 和也</td> <td>バイオテクノロジー科 4 年制 4 年保護者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域関係者</td> <td>加世田 光義</td> <td>おおた農水産業研究会</td> <td>会長</td> </tr> <tr> <td>業界関係者</td> <td>池田 昭</td> <td>(有)オフィスアーク</td> <td>プロデューサー</td> </tr> </tbody> </table> <p>【学園・学校関係出席者】</p> <p>中村 道雄 学校法人 東京滋慶学園 理事長 大谷 啓一 東京バイオテクノロジー専門学校 学校長 関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 運営本部長 (zoom) 居関 暁昌 東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長 代田 望都 東京バイオテクノロジー専門学校 広報センター長 杉田 佑輔 東京バイオテクノロジー専門学校 産学連携・新規事業センター長 大山 直人 東京バイオテクノロジー専門学校 キャリアセンター 加藤 充剛 東京バイオテクノロジー専門学校 教務事務センター長 内沢 淑子 東京バイオテクノロジー専門学校 学生サービスセンター長</p>			区分	氏名	所属	役職	高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	学校長	保護者代表	関口 和也	バイオテクノロジー科 4 年制 4 年保護者		地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長	業界関係者	池田 昭	(有)オフィスアーク	プロデューサー
区分	氏名	所属	役職																				
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	学校長																				
保護者代表	関口 和也	バイオテクノロジー科 4 年制 4 年保護者																					
地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長																				
業界関係者	池田 昭	(有)オフィスアーク	プロデューサー																				
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 委員の紹介・学校側紹介 3. 本委員の主旨説明 4. 2024 年度の自己評価国目と評価内容のポイント説明 5. 2025 年度の重点項目と説明 6. 産学連携の報告 7. 質疑応答・意見交換 8. 評価シートの記入方法説明と評価表記入 9. 閉会挨拶 																						

司会 杉田

1. 開会挨拶（学校長 大谷）

忌憚のない意見をお願いいたします。

2. 委員の紹介・学校側紹介

前年より委員変更がないため、学校側のみ紹介

【委員】吉岡委員（高等学校関係者）・有賀委員（卒業生）所用により欠席

【学校側】松本教務部長 所用により欠席。永井教務リーダー 授業により欠席。

3. 主旨説明（事務局長 居関）

専門学校とは高専、一般課程、専修学校専門課程（専門学校）2676校、前年より約20校減少に状況にある。そのうち1123校が職業実践専門課程。本校は4年制が対象。

職業実践専門課程、専門学校の中でもより実践的、より高度な専門的授業を行っている学校が認定され、①業界、企業と参画してカリキュラムを構築していく。②企業と連携して演習、実習をしている。③教員研修をしている。④企業などを参画して学校評価をしている。⑤学校の情報公開をしている。5つの条件がある。

自己点検・自己評価は、10項目について本校の取り組みについて点検、評価の結果をお伝えし、この場で意見などを頂き、学校教育に反映をさせる。そのため学園でも今回の本委員会は重要だと位置付けている。

4. 2024年度の自己評価項目と評価内容のポイント説明

【基準1（教育理念・目的・養成人材像）】（事務局長 居関）

「職業人教育を通じて社会に貢献をしていく」をミッションに掲げ、3つの建学の理念に基づいて、カリキュラムを作成。4つの信頼を掲げ、裏切らない運営をしている。

学生配布の学生便覧には、養成目的、目標、カリキュラムを明確に定め、活用をしている。

【基準2（学校運営）】

事業計画を定め、組織目的、運営方針、計画体系を示している。収支計算についても単年度ではなく、中長期の計画をたて実行している。

事業計画についての説明。

- ① 組織目的 企業連携とインターンシップを軸とした産官学連携教育で第5次産業革命の中核を担う人材を養成することで、明るく豊かに暮らせる未来を創出する
- ② 運営方針 大学教育では実現できない東京バイオにしかできない学びを創造する
- ③ 職務分掌、意思決定の流れ、職員の評価体系、収支計算などを決定していく

【基準3（教育活動）】（事務局長 居関）

人間教育：業界で活躍できる職業人を育成する仕組みとして、導入教育、キャリア教育、卒業までのフロー教育の実施。

実学教育：学生像に合わせた新カリキュラムの運用初年度であり、3年制は、早期コース選択、4年制は自由に科目選択ができるような状況にある。データサイエンス（工場などでも使える技術を学べる幅広い学び）、プログラミングの授業がある。

講師・教職員の資質向上として、

教職員：業界理解の為の研修、クラスマネジメント研修、グループ校との合同研修

講師：授業力向上プロジェクトによる講師研修、現代の学生理解、教授法、生成AI、学生の社会人基礎力、一歩前に踏み出す力だったり日常から仕掛け作りを検討中。

【基準4（学修成果）】（キャリアセンター 大山）

2024年度卒業生 4年制37名、3年制72名

4年制：31名就職者/31名就職希望者（100%）、大学院進学3名
（東京科学大学、東北大学、順天堂大学）

3年制：61名就職者/61名就職希望者（100%）

学内フローとして、就職対策講座、就職スタート式、模擬面接、身だしなみ講座実施。学内企業説明会、面接練習、就職先の求められる人材と学生とのマッチングを実施している。

【基準5（学生支援）】（事務局長 居関）

学生支援卒業まで続けられる一人ひとりのサポート、多様化に対応。

2024年度退学者4.8%（19/395名）

4年制：4.1%（7/168名）、3年制：5.2%（12/227名）

固有の問題（精神、発達、病気など70%）、家庭・経済的問題20%、クラス不適応10%

2024年度進級率 89.1%（12/107名）

4年制：33/39名 6名進級できずうち、2名退学

3年制：74/81名 7名進級できずうち 6名退学

固有の問題（メンタル、発達、病気など70%程度の割合）

卒業支援としては、リカレント教育（社会人教育と連携）、4年に1度同窓会を実施。

【基準6（教育環境）】（事務局長 居関）

ICT環境の整備（teamsの導入・学生ポータルサイト・安否確認システム）

Teams：授業・学校生活のツールとして活用

学生ポータルサイト：出席、成績状況の確認、各種申請

安否確認システム：災害時等の情報収集ツール

安全管理として、入館時のセキュリティーシステムの導入、実習での応急対処法、年1回の防災訓練を実施。

※施設の老朽化：学園グループで対応。次の校舎移転の検討中。

学生の現場力の向上のため、実践力を身に着ける環境、130件以上の研修先、（研究機関、大学、企業など）。複数の産学協働研究の連携先を設けている。

（教務リーダー 永井）

海外研修について、5年ぶりにオーストラリアシドニーで実施。医療品関連プログラム、香料・化粧品関連プログラム19名参加。

今後は、実施可能なプログラムをさらに構築予定。

【基準7（学生募集）】 （広報センター長 代田）

募集要項に基づいた選考方法で実施。学費情報のHPにも掲載。

大学と検討中の学生が対象なるが、大学全入時代となる学校の課題として大学志望層への認知拡大。

進学媒体（スタディサプリの検索上の表示上位）・WEB（SEO対策）検索上位・SNS（TiKTok：学生生活がわかる動画・実験好きの学生向けの実習動画を作成）再生回数前年より増。

志望度を上げる取り組みとして、リニーの活用、客層にセグメントをした情報提供をする。入学前（プレカレ）、入学後（合格案内）など端末で確認ができる。デジタルパンフ（募集要項、DM、おうちにいながらオープンキャンパスが見れる）入学生の早期獲得を目指す。

進学媒体やWEB検索における表示順NO.1獲得の構造作り、大学志望層の価値に答えるオープンキャンパスにし、大学と徹底比較をした情報を提供。

具体的な職業像がイメージできる動画視聴後、実習に入る。ライン登録者のみ視聴ができるライブ配信型オープンキャンパスや、高専連携で早期の接触（出張授業、来校授業、研究協力）などで認知拡大を図っている

【基準8（財務）】 （事務局長 居関）

株式会社滋慶サービスが学校の予算執行管理をしている。

事業計画をもとに運営をしており、財務について監事監査も受けている。

年度ごとの事業報告書・財産目録・財務諸表を、学校の情報公開ページにて公開をしている。

【基準9（法令遵守）】

個人情報保護基本規定を定めおり、規定に基づいて学校運営をしている。

学校の情報公開にて公開している。

【基準 10・11（社会貢献・地域貢献）（国際交流）】

産学連携での学生の関わりや、社会人講座の実施で貢献ができています。
海外研修は、オーストラリアシドニーにて実施し、19名参加。

5. 2025年度の重点目標と説明（事務局長 居関）

大学教育では実現できない東京バイオにしかできない学びを創造する。
既存の教育プログラムを深化させ、新学科とコラボしたプログラムを構築する。

ここにしかない学び、ここにしかない出会いを創造する。

新たな社会人講座を創造し、開講する

産学連携教育で滋慶 EAST グループを牽引する

6. 産学連携の報告（産学連携・新規事業センター長 杉田）

2024年度事例

羽田スカイブリュワリー（醸造）、東京イーストサイドカイエ（化粧品）、みちのく村山農業協同組合 JA（化粧品）の成功を報告。

業界とともに高度な実践型キャリア教育を推進すべく、商品開発ができるから商品開発を構築できる。を目指している。

羽田スカイブルワリー：だだちゃ豆を使用して商品開発を実施。学生が現場に出向いて原料の流れなどにも関わっていく教育の仕組みを実施。大手の企業、地域の企業とのコラボで価値を上げている。

戦略的に教育効果と進路実績を高める取り組み

高度な実践型、キャリア教育で、新たな産学連携プログラムを開発。

卒業生経営者と在校生が分野を超え、卒業生経営者の取り組みに在校生が実践をし、経営者のサポートを学校がする仕組み作りを推進中。

7. 質疑応答・意見交換

関口委員

広報は単願、併願校はどこか

→単願 90名程度。理系大学（神奈川大学、東洋、農大など）

池田委員

今後も目標達成ができそうなのか

→大学共通テストの新・旧課程の大学受験の変革に合わせた受験方法に変え、社会人入学への広報、勉強をしたい層への価値づけの認識ができた。

森委員

高校も公立、私立の入学生の流れの変化がある。15歳人口減少で併願ではなく単願の集客が大事。施設を見て決めるだけではなく、教職員の雰囲気など、

オープンキャンパスに参加をして決定の傾向にあるのかなと感じている。

加世田委員

募集はWEBのみか、紙媒体もあるのか。情報漏洩などについてはどうか。
→両輪でWEB、ガイダンスと出張授業で進学媒体の検索を上げる施策をし今後もWEBに注力していく。

情報漏洩については、個人情報委員があり、漏洩がされない仕組みになっている。また、学園グループでの支援のもと、万が一の場合の対応もしている。

池田委員

新入生の男女比について。職業がきちんと見える化が東京バイオの強みではないかと思う。

→女性6割に増加。

8. 評価シートの記入方法と評価表記入

評価方法の記入説明。評価表を記入して頂き、提出の依頼。

手元資料の自己報告書の評価項目65項目の小項目に沿って、2024年度の自己点検・自己評価を4月14日に実施しました。今回は第2次評価として、各委員の方には、全11項目の大項目（A3シート）の評価とご意見を頂きます。

評価は3点満点評価。A3シート左側には、自己点検評価を記載しております。右側の欄に大項目に対しての評価、改善点、よい点がありましたら、できるだけ記入をお願いします。

9. 閉会挨拶（中村理事長）

貴重なご意見いただき、ありがとうございました。

欠席の方にもきちんとお伝えをし、意見を賜り、運営に反映させていきたい。専門学校の中でも定員が充足できない学校もある。学校の情報公開をすることができない学校もある中、委員の方の協力のおかげと考える。

今後とも、ご指導ください。

◆評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落とししていく。